

第2回意見交換会概要

- 第1回の意見交換会を踏まえ、日本のクルーズ船の受入環境について、課題への対応状況の報告や協力要請を実施。

- ツアーバスの駐車場が不足しているとの指摘について、官民連携による国際クルーズ拠点の形成による駐車場の整備や乗客の下船順に応じてバスを入構させるオペレーションを実施していることを報告。併せて、下船順情報の事前提供や精度向上についての協力を要請。
- 入国に時間を要するとの指摘について、入国審査レーンを増やすなど乗下船導線の改善状況を報告。
- クルーズ客の受入を拒否する観光地があるとの指摘について、拒否していない観光地についての認識の共有を図るとともに、拒否（受入を休止）している観光地について、その理由（ゴミ、トイレの使用、周辺住宅街への立入り等の問題が生じている、無料観光地である等）を説明。また、駐車料金を徴収する前提での受入再開に向け調整をしている状況を説明。
- 併せて、他の観光地を含め、上記のような問題改善への協力及び持続的な受入に向けた駐車料金等の徴収への理解を要請。
- 国際クルーズ拠点の整備状況の紹介。

- 中国側旅行会社6社より、旅行会社の立場からの訪日クルーズについての意見があった。

- 入国手続き時間がかなり短縮された港もあるが、依然として長い時間を要している港もある。
- 今後、6,000人規模の複数の大型クルーズ船の中国配船が決まっており、それを受け入れる日本の港のハード、ソフト両面での更なる対応が求められる。
- クルーズ商品の供給量が今後増えていく状況下、日本の港湾関係者に中国・上海を訪問していただき、当地旅行会社との交流の機会を増やしていただきたい。
- 来年のオリンピック開催時期、オリンピックの混雑の影響を受けない地域への寄港地観光の促進のためにも地域の交通状況等について事前に情報共有していただきたい。
- クルーズ旅客の観光時のマナーについて、中国の旅行会社もマナー教育に力をいれており、クルーズ商品を販売する際の旅行契約書にもマナーに関する項目をいれている。課題となっているマナーについてはランドオペレーターにもしっかりと伝え、対応していく。

(次項に続く)

- 中国における販売形態としては依然としてフルチャーターであるが、分散型販売の形態に変化しつつあり、販売に関わる関係者の収益を高める目的に向かっている。
- 客室のタイプによって寄港地観光の形式を決めることは困難であるが、夏休み、冬休み、国慶節、春節などの特定の時期に通常とは異なる寄港地観光を造成することは大切。
- 当地旅行会社ではクルーズ旅行のリピーター率が低いという認識はなく、むしろ高いものとして認識されている。
- 日本と中国は距離が近く、欧米へ飛行機で行ってからのフライ&クルーズのように旅行日数を大幅に短縮する効果は期待できず、ビザ無しでいけるクルーズ商品に特化した方が旅行客は受け入れやすいのではないか。

○ 今後も引き続き、持続的発展に向けて、両国で定期的な意見交換の場を持つこととなった。